

会 議 録 (要旨)	
会議の名称	令和2年度 第1回瀬戸市障害者地域自立支援委員会
日 時	令和2年10月5日(月) 午後2時から午後4時まで
場 所	瀬戸蔵多目的ホール
出席委員	<p>【委員長】 宇都宮 みのり (愛知県立大学 教育福祉学部)</p> <p>【副委員長】 池戸 智美 (特定非営利活動法人 ハッピーリング)</p> <p>陰山 雅史 (瀬戸公共職業安定所) 池田 有希 (瀬戸市教育部 学校教育課) 松尾 俊明 (尾張東部障がい者就業・生活支援センターアクト) 水野 大介 (公立陶生病院 医療ソーシャルワーク室) 中島 史恵 (瀬戸市健康福祉部 児童発達支援センター) 伊里 みゆき (社会福祉法人瀬戸市社会福祉協議会) 加藤 美矢子 (瀬戸市民生委員児童委員協議会) 中島 正二 (当事者) 尾関 亮三 (瀬戸市手をつなぐ育成会) 井上 雄裕 (当事者)</p>
欠席委員	<p>西川 恵子 (愛知県瀬戸保健所 健康支援課) 住田 敦子 (特定非営利活動法人尾張東部権利擁護支援センター) 岩永 千弥子 (瀬戸市身体障害者福祉協会)</p>
事務局	<p>社会福祉課長 稲垣 宏和 社会福祉課長補佐 内田 智高 社会福祉課福祉係専門員兼係長 成松 実 社会福祉課福祉係主事 後藤 紀貴 社会福祉課福祉係主事 都築 望</p>
傍聴者	2名
議事内容	
あいさつ	
委員長	<p>本日も宜しくお願いたします。瀬戸市は障害者福祉という点で大きな転換点に立っている。今年の3月の瀬戸市議会で障害者手当の支給条例等の廃止に関する議案が賛成多数で可決され、手当がこの10月から廃止されました。これは県内においても初の廃止事例とのこと。また、9月が最後の振込になるという通知も当事者の方々に届いたとのこと。昨年12月の委員会で説明があったが、1970年の開始時に比べて福祉サービス等が充実してきた事に伴い、この手当が一定の役割を終えたという説明を受けました。本委員会でも多数の意見が出され、「廃止を前提とした説明はあまりにも唐突である。性急である。説明や説得力に欠ける。潤っている生活をしている訳ではない。」等の意見が多く出されました。そして市民に対して納得のいく説明責任を果たすこと、障害者の生活の質を落とさない代替案を必ず立てること、廃止に伴う当事者の痛みを市も理解して今後の施策を考えていただきたい、と強く意見をしたところ。今年3月に開催予定でした委員会がコロナ感染症拡大予防の為に書面会議となり、この度ようやく対面での委員会が再開いたしました。瀬戸市が今後、障害者福祉施策を立案する中で、手当廃止に伴い障害者の生活が変化すると思いますが、それに伴いどのように代替案を立てるのか、障害者福祉計画の施策をどのように立てるかについてのとても重要な会議となります。出来るだけ市議会にも届くよう意見を出していく必要がありますので、委員の皆様におかれましても多くの意見を出していただきたい</p>

	<p>と思います。</p> <p>なお、本日は2名の傍聴者がいらっしゃいますので入室いただきます。傍聴者におかれましては静粛にさせていただきますようお願いいたします。</p>
<b>委員紹介【資料1・2】</b>	
委員長	<p>議題に入る前に委員に変更がありますので紹介いたします。事前配布資料3頁の瀬戸市障害者自立支援委員会委員名簿をご覧ください。</p> <p>委員名簿の1番、雇用機関関係者として瀬戸公共職業安定所雇用指導官の大井氏に委員委嘱されておりましたが、令和2年10月1日付けの人事異動により陰山氏が後任として委嘱されております。また名簿の6番目、行政機関関係者として児童発達支援センターの澤井センター長に委嘱されておりましたが、令和2年4月1日付けの人事異動により中島氏が後任として委嘱されております。</p> <p>また、今年度は障害者福祉計画及び障害児福祉計画の改訂年度にあたり、国・県の施策に関する事業の把握を行うことが必要であることから、尾張東部圏域地域アドバイザー大谷氏にご意見いただきたく、運営規則第6条の規定に基づき参加いただいております。</p>
<b>【報告事項】</b>	
<b>1 瀬戸市障害者福祉計画及び瀬戸市障害児福祉計画策定スケジュールについて【資料3】</b>	
委員長	<p>それでは、次第1【報告事項】に入ります。瀬戸市障害者福祉計画及び瀬戸市障害児福祉計画策定スケジュールについて事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	(説明)
委員長	<p>説明ありがとうございます。只今の説明についてご質問等ありますか。</p> <p>無ければ私から一点確認があります。事前配布資料4頁の作業スケジュールについて、計画骨子案の作成が11月上旬までとなっており、計画骨子案の作成・修正が12月末までとなっております。5頁では第2回の委員会が12月末に開催予定で計画骨子案と事業計画内示の報告があるということですが、その際に計画骨子案や事業計画案に対して意見をお伝えして、その意見が反映される余地があるのか伺いたい。</p>
事務局	<p>こちらの計画骨子案及び事業計画案に対していただいた意見は、1月に実施予定のパブリックコメントの意見と併せて反映をさせていただきますので、よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>事前配布資料5頁について、障害者手当廃止に伴い7つのキーワードに基づき新たな施策を立案されているとのことですが、現時点で障害者手当廃止に伴う予算額と新たな施策の予算額の比率を分かる範囲で教えていただきたい。</p>
事務局	<p>中期事業計画の議論内容については、まだ未確定の状況であるため、この場で説明をすることは控えたいと思う。</p> <p>また、予算についてですが障害者手当廃止に伴う予算を初年度から全て計上することは難しい。現在、各部署から新たな施策に関する事業を提案してもらい、トータルして1億円以上という形になっています。今後すぐに開始できる事業と精査・審査を重ねて行う事業とあるため、来年度から全て始まるという状況ではありません。</p>
委員	<p>国や県でも社会的弱者を救う施策があると思うが、瀬戸市の障害者施策の狙いを教えていただきたい。</p>
事務局	<p>地域で障害のある方が健やかに安心して暮らせる地域にしていきたいと考えている。国や県などの施策を活用しつつ、国や県では手が届かない地域性のあるものについては瀬戸市独自の施策で行いたい。</p>
<b>【協議事項】</b>	
<b>2 障害者施策の課題を把握するための調査結果について【資料4・当日配布資料】</b>	
委員長	<p>続きまして、次第2【協議事項】の障害者施策の課題を把握するための調査結果について、今日のメインになるかと思いますが、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	(説明)

委員長	<p>説明ありがとうございます。膨大な資料でしたがこの半年間で社会福祉課として、これだけのことをされてきたということになります。障害者の生活実態、ニーズ調査をした結果、導き出された充実すべき施策として考えられるものを説明していただきました。また、障害者・当事者との意見交換会、医療的ケア児の関係者との意見交換会を行い、そこで出された意見を整理して課題を抽出し施策の立案の方向性を報告いただきました。まずは、コロナ禍においてこれほど大きな調査を実施したということでお疲れ様でした。説明資料の中にもあったが、これだけの調査は熱意がないとできないことかと思えます。</p> <p>ここからは、委員の方の意見をできるだけ多く集めていきたいと思えます。先ほど、施策の立案段階にあるという説明がありましたが、障害者手当廃止に伴う具体的な代替案が障害者計画を練っていくうえで有用な指針となる意見として本委員会から提示され、今後市議会に届けていくというとても大事な場になると思えます。12月には立案された施策が提示されることになるので、今回はなるべく多くの意見をいただきたいと思えます。膨大なデータではありますが、先程事務局から説明がありましており、アンケート結果から充実すべき施策として考えられるものが事前配布資料にいくつか記載されています。その施策を補強するような現場の実情や、逆にそれに対する反論、あるいはここには出ていないが委員が実際に直面している困難さだとか課題というもので把握しているものを出していただきたい。意見交換会で出された意見に関して、特にこの意見は重要なので取りこぼさないでほしいといったものや、あるいは施策を練るときの方向性を出していただけたらと思う。ぜひ本日は全員発信で各々が持つ意見を出し尽くしてほしい。ただし、これだけ膨大な資料が本日提供されており、本日中に意見を出すことが難しい場合もあるかと思えます。事前に配布してもらえるとよかったですと思えますが、膨大な量だったので分析にどうしても間に合わなかったという事情もあり、業者に出さずに市役所で作業を行っている部分もあるという点を理解いただきたい。本日この場で発言できなかった場合でも、後日社会福祉課に届けることも可能だと了承を得ている。この先1週間程度でアンケート等を確認してもらい意見するというので、本日若しくは後日でも結構なので全員発信でお願いしたい。繰り返しになりますが今回の委員会はとても重要な場になってくると思えます。それでは時間の許す限りご意見をいただきたいと思えます。</p>
委員	<p>アンケートで障害者の高齢化が明らかになっているという分析結果だったが、障害者3,566名のリストがあるものなのか。また、障害者全体の58%の方に配布されているということであったが、回答された方が高齢者の方が多かったのではないか。リストがあれば若い対象者が少なかった等が分かるのではないか。</p> <p>もう1点、障害者理解が進んでいないという現状があるかと思うが、市内の小中学校で授業を行うとしたらどのカリキュラムに当てはまるのか、授業を入れてもらう隙間があるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>1つ目に質問に関して、アンケート送付対象者のリストは持っています。その中で瀬戸市自体が高齢化が進んでいることもあり、障害者においても高齢者の割合が多くなり、回答者の割合として高齢者が多かったということである。</p> <p>2つ目の質問に関して、教育プログラムもあるので、本市の障害者の方からこういった課題があると意見が出ていることを共有をさせてもらった上で、今後どのような形で小中学校やライフスタイルに応じた教育ができるかを議論していきたいと考えている。</p>
委員	<p>以前教育部にカリキュラムを作してほしいとお伝えしたことがあるが、まず先生方に教育をしないとイケないと言われ、その後は連絡がない。先生方は夏休みに勉強をされるのでその機会にレクチャーをしないとイケないという話まではできたのだが、ぜひ小中学校で進めていただきたい。</p>
委員	<p>先ほどの質問の2つ目の件で私が持っている情報を提供したい。 愛知県内のほぼ全市町村で福祉実践教室というものを年に1回程度実施しており、そこ</p>

	<p>で障害者理解の授業を行っている。瀬戸市では全校で行われているわけではなく、今年度はにじの丘学園で実施予定、西陵小学校で実施希望ということで、市内の少数の学校で実施しているという現状である。授業内容については、3障害のうち身体障害が中心となるが、尾張旭市の場合は知的障害も含み、大府市の場合は精神障害も少し含んで行っていると聞いている。</p> <p>また、アンケートにおいて食費に次ぎ光熱水費が高いという結果が出ているようだが、すなわちエンゲル係数が高く、生活に余裕がないということであり、そういった障害者に対して今後どのようにサポートしていくのか。おそらく生活が苦しいと災害時のこと、将来のことなどの不安材料をいくつか持っていると思う。災害時の支援について、災害訓練のようなものを実施するとなるととてもハードルが高いので災害体験ピクニックのような軽いものから始めるとよいと思う。障害者も参加することによって地域にこういった障害者がいる、障害者にはこういった対応が必要である、といったレクチャーから入っていった方がいいのではないかと。行政と住民の役割分担でいうと、ハード面と継続性の行政に対して、小回りがきく住民という分担だと思ふ。その場合、災害ピクニックというものは住民にどのように任せていくのかを考えつつ行えば可能ではないか。そのためには、家の中にいる障害者をいかに外に連れ出すか、施設にいかに協力してもらおうかということが課題になってくると思うが、他の委員にも意見を伺いたい。</p>
委員	<p>私には49歳で自閉症の長男がいる。また、私は手をつなぐ親の会の会長という立場でありつつ入所施設・2つの通所施設・グループホームを持つ社会福祉法人の責任者でもある。入所施設は定員50名で平均年齢50歳を超えており最高で68歳の入所者がおり、コロナの影響で外出を規制している状況である。1つ目の通所施設は定員35名で開始してから13年が経過した。先ほどから障害者の就労というワードが飛び交っているが、パート3名までは採用できたがそれ以上はできなかった。瀬戸市の社会福祉法人の通所施設は生活介護の流れとなっているが就労継続支援B型で頑張っている。瀬戸市役所の障害者雇用について、知的障害者の雇用も頑張ってもらいたい。2つ目の通所施設については、今年4月に開所したばかりであるが、火の車状態で経営している。医療的ケアという言葉をよく聞くが、施設長が喀痰吸引の医療行為を行うことができる資格を取得し、もう一人の職員も研修を受けている状況である。現在市内に20名の医療的ケア児がいると説明があったが、可能な方については受け入れたいと考えている。</p> <p>グループホームは定員20名であり、うち8名は身寄りがなく365日グループホームで暮らしている。入所施設についても、両親が亡くなる等により15名ほどが365日入所施設で暮らしており、障害者の高齢化が進んでいると感じている。法人全体で120名ほどを預かっておりいろいろなケースに携わっている。</p>
委員	<p>障害者福祉計画と代替案を出していくことになると思いますが、計画の中から代替案を出していくということか。議会の中継を見ていたが、この委員会というものがこれまでに増してより重要になっていると感じている。障害者手当が廃止になる際に説明会を開催し意見を拾う場がありつつも廃止となり、代替案を真剣に出していかななくてはならないが、時間も短い中で大丈夫なのかという不安がある。アンケート結果を集約する中で、市民の声が多いものだけを取り入れるのではなく、少ない意見の中にも注目しなくてはならないものもあると思うので、順位表に掲載されている意見のみに注目されることがないようにしてほしい。また、事前配布資料の中で医療で困っていることはあるかという質問で「ほとんど無い」という回答が最も多かったという結果があるが、報告書の41頁にある充実を望む支援について、身体障害の2番目に「通院・治療のための医療費の助成」とあるので、本当にほとんどの方が通院医療費の助成に困っていないのか疑問に感じる。</p> <p>代替案を出すことによって、これまで支援を受けられなかった方が受けられるようになるといった面もあるので、一概に手当の廃止が悪いものとは言えないが、多くの人にとって良い施策を考えるということはとても難しいことではあるが大事だと思う。</p>

	<p>アンケートにおいては本人が意思を示すことが難しい場合は支援者が本人の意思をくみとって回答するようにとあったが、それが本当に難しくアンケートをより難しくしていると感じた。</p> <p>意見交換会もコロナ対策を万全に取られていてとても大変だったと思うが、金曜日の夜と土曜日の朝なので子供の預け先がない親は参加が難しいことや、その場で7つの課題をもらった上に時間が短い中で意見を出していくということが難しかったと思うので、こういった場を他にも設けたり、リモートでの参加ができるような形にして、少ない意見でも拾える形になるとよかったと思う。</p>
委員	<p>事前配布資料9頁において、災害時の避難について身体障害及び知的障害において避難場所の設備や環境が不安とある。福祉避難所があると思うが、医療的ケアが必要な人がどこに避難するのかしっかりと伝わっているのか不安。病院にもこういった医療的ケアの人がどこに避難するのか伝わっていないと思う。福祉課、災害担当課、消防及び医療機関が連携して、いつ災害が起きてもどの避難所に行けばよいのか障害者の方に周知等を行ってほしい。</p> <p>意見交換会についてはよい取り組みだったと思うので、来年度以降も継続してもらいたいと思う。当事者が行政に直接意見を言える場も少ないため、そういった生の意見を行政が計画に反映することができれば、当事者の方と信頼関係を構築できるかと思う。</p>
地域アドバイザー	<p>本日多くの資料を拝見しましたが、他市町も見させてもらっている中で、ここまでまとめられてる市町村は初めてだったので素晴らしいと思う。</p> <p>保育に関する調査については、その後の学校での生活はどうなっているのか気になったのでそこも調査できるとよいものになると思う。</p> <p>福祉実践教室について、各市町で科目や授業の方法が異なる。その中で、福祉実践教室のあり方についても、障がい者相談支援センターと協力しながら見直しをして実りのあるものにしていくことで、子どもが成長していく中で障害者理解につながっていくと思う。</p> <p>学校の教員カリキュラムについては、大学時代には介護体験として福祉施設での体験があり、先生になってからは初任研で福祉施設等での体験、さらに11年目にも研修があるため、こういった研修を体系立ててよいものにできるとよい。</p> <p>医療的ケアについて、各市町当事者の人数が少なく受け入れ態勢を整えることが難しいという実情があるが、報告にもあったように関係機関と連携しながら看護師が巡回する仕組みは大事だと感じた。</p> <p>災害対策についても各市町対応策が異なる。他市町の例を見ていると、一般的な災害訓練に障害者がいかに溶け込んでいくかが大事だと思う。モデル地区でも作って取り組んでいけるとよいと思う。</p>
委員	<p>名古屋市で生活保護を受けている方の家が古く、給湯設備等が老朽化していることもあり家賃は上がる（二万円台から三万円台）が転居の相談をしたところ行政側から許可されなかった。暮らしケアの支援員が行政に相談に行ったが同様に却下された。生活保護だと家賃は4万円まで保障されると思うが、瀬戸市でもそのような事があるのか。</p>
事務局	<p>今回の情報だけで名古屋市がどうして却下したかまで回答することは難しい。ただし、雨漏りや給湯設備に問題があった場合、住宅改修の一部扶助で修繕することができる場合がある。最低限の生活が保障されていないようであれば、一般的な生活保護のマニュアルに沿って、住宅扶助の可能な範囲内で引っ越し対応ができる場合もある。</p>
委員	<p>日中の外出状況のアンケートの中で、10%の人が全く外出してないということだが、引きこもりなのか出る機会がなかったのかどういう内訳なのか気になったので、追跡調査があってもよいのではと思った。</p> <p>また、アンケート結果の中で障害者の方で働ける自信がないという方がいるが、企業も一緒に働いてもらう業種が無い、教えられる自信がないという企業が多くある。今後どのように働く門戸を広げていくかが課題だが、相互理解が大事だと思う。</p>

	<p>アクトやハローワークから障害者の方に働く体験をしてほしいと考えており、職場実習をするようお願いしている。名古屋市の場合は助成がありバス代がかからないので交通費のハードルが低いが、名古屋市外の場合はそういった交通費助成がないので、交通費が厳しいといった声もある。愛知県としても交通費助成は難しいそうだが、そういった助成があるとよいと思う。他だと福井県や石川県で実施している。県内だと北名古屋市でやっていると聞いたことはある。企業で助成がある場合もあるが、市でも少し検討してもらえれば。</p>
委員長	<p>本日このアンケート結果の意見を述べるのは大変かと思うので、この先1週間を目途に事務局に是非皆様方の意見を伝えていただきたい。時間も無い中で重要な案件について意見を出し切るというのはとても過酷だとは思いますが、半年間でこれほどの大規模の調査をしたということについて他にあまりみないものであり、こういった意思形成プロセスを重視したことは評価されるものだと思う。ただ、今後大切になるのはこの先の施策になるかと思う。調査を実施した、委員会を開いたということだけで終わらせるのではなく、アンケート結果などにおいて恣意的な結論にならないよう慎重に議論する必要がある。また、調査結果が全てではなくここに反映されていない意見や当事者から意見を聞くことの難しさを加味しながら、具体的な施策として実現してほしいと思う。障害者手当廃止に伴って1億3千万円というお金が、どのような新しい障害者サービスになって市民に還元されていくのか。そこにはどれほどのお金が投入されていくのかを委員会で注意深く見ていきたい。</p> <p>それでは協議事項が終わりまして次の議題に進みます。</p>
<p>3 その他 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う市内事業所の現状について【資料5】</p>	
委員長	次に次第3【その他】について事務局から説明をお願いします。
事務局	説明
委員長	ありがとうございます。何か意見などありますでしょうか。 意見が出ないようであれば、そのほか事務局から何かありますでしょうか。
事務局	お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。次回は令和2年12月22日(火)瀬戸市役所4階大会議室午後2時からを予定しております。アンケート調査については現在校正中のものであり、公表できる状態ではないため、ご注意いただきたい。
委員長	最後になりますが、他に意見などはありますでしょうか。
委員	アンケートの外出支援の質問の中で、特に困ることは無いという回答が多いと記載されているが、本当に困ることが無いのではなく諦めているという考えの方がいることを忘れずに作業してほしい。また、家族が相談できる場所がないという意見もあったので、どのように関わりを持てるようにするか考えていってほしいと思う。
委員	一週間以内の意見というのはメールやFAXでよかったでしょうか。
事務局	はい。
委員長	それでは第1回瀬戸市障害者地域自立支援委員会を終了します。事務局の方、傍聴の方も本日はありがとうございました。委員の方も本日は長時間にわたりありがとうございました。